

【教育目標】 総合目標 知性を磨き、心を見つめ、チャレンジする生徒



# チャレンジ☆アイ

- ◎自主性、創造性のある生徒(知育)
- ◎情操豊かな生徒(徳育)
- ◎健康でたくましい生徒(体育)

## 【2年平和学習】 ～ 戦争が起きた「過去」を「未来」にしないために・・・ ～

6月22日(水)に2学年の平和学習がありました。沖縄の日本復帰50年の節目に当たる今年、2年生は「4・28から考える沖縄」、「5・15から考える平和」などのテーマで米軍統治下の沖縄の人々の生活、土地闘争や復帰運動、復帰前後の沖縄の状況などについて学び平和について考えてきました。今回は、「慰霊の日」の前日に「海軍壕公園(旧海軍司令部壕)」の見学等を通して、悲惨な沖縄戦について学び、戦争の愚かさや平和のありがたさについて考えました。

当日は、梅雨明けの晴天のもと学校から海軍壕公園まで約30分かけて徒歩で移動しました。はじめに慰霊塔前の講話で、沖縄戦が激化する中の地下壕での将兵たちの生活や悲惨な沖縄戦の状況などについて学びました。その後、当時の遺品や家族への手紙などが展示された資料館をワークシートを記入しながら見学しました。実際の壕見学では、少し怖そうにしている生徒もいましたが、沖縄戦当時のまま残された通路や司令官室、その他の遺品などの見学を通して戦争の悲惨さを体感することができました。

平和学習の後は、公園内の広場で学級対抗の「大縄跳び」と「8の字跳び」を行い、学級・学年の団結と親睦を図りました。暑い中でしたが、最後までよく頑張っていた2年生の皆さんに拍手を送りたいと思います。



### 【生徒の感想】

- ◎ 平和学習を通して、小さい赤ちゃんからお年寄りまで戦争で亡くなっていったことを悲しく思いました。写真や壕の中に入って、とても暗い中、爆音が響き、外の状況も分からないまま過ごすのはとても怖いと思いました。また、二度と同じことが起こらないようにするために、世の中の出来事に目を向け、自分たちが今できる最善のことを行っていきたいと思いました。(1組 長濱杏)
- ◎ 6月22日に海軍壕公園へ行き、思ったことが2つあります。1つ目は壕の中についてです。あの頃は今とは違って穴をはやく掘れる道具が全然なく、手で掘っていたのに、深さが約20mくらいあったのですごくと思いました。2つ目は資料館の中の写真についてです。写真にはたくさんの亡くなった人が写っていて、戦争の悲惨さを感じました。この2つのことから、戦争をして良いことは1つもなく、悲しむ人が増えるだけだと分かったので、今後、戦争について語り継いでいき、もう二度と戦争を繰り返さないようにしたいです。(3組 比嘉唯人)
- ◎ 私は今回初めて壕の中に入りました。壕の中はとても広く当時の人たちがツルハシで掘った跡や手榴弾の弾痕が生々しく残っていました。当時は電気なども少なかったと思うので、もっと暗く怖かったと思います。資料館の中で一番心に残ったのは、大田司令官の「・・・沖縄県民斯克戦ヘリ 県民ニ対シ後世特別ノ御高配ヲ賜ランコトヲ」という電文です。この電文には、県内各地を視察して県民の実情をよく知っていた大田司令官の思いが込められていました。戦争が起きた過去を未来にしないため、私が戦争についてよく考え、しっかり伝えていきたいです。(9組 藤原理瑚) ※ 箇所は校長挿入

## 【市「少年の主張大会」】～「奇跡の国 日本」 大松奈央さん(3年5組)～

7月1日(金)に豊見城市立中央公民館大ホールにおいて、令和4年度第39回「豊見城市少年の主張大会」が開催されました。「少年の主張大会」は、「多感な青少年達が日常生活で日頃考えていることを発表することにより、同世代の仲間達に自覚と希望を与え、大人の理解と協力を深める契機とする」ことなどを目的としており、本校からは、3年生の大松奈央さんが出場しました。大松さんは、「奇跡の国 日本」という演題で、未成年の薬物使用の問題について発表しました。以下、発表の概要を紹介します。

日本は、薬物使用者が少ないことから諸外国から「奇跡の国」という印象を持たれている。しかし、近年、全国的に未成年者の薬物乱用が深刻化し、沖縄でも薬物に手を染めてしまう若者が急増している。

去年、新聞記事で「中学3年で大麻をはじめ、高校にも行かず、家族や様々なものを犠牲にして暴力団関係者から覚醒剤を買い、警察に逮捕された男性」の記事を読み、驚きや切なさと同時に薬物の怖さを感じた。

一人でも多くの未成年者に薬物の危険性を正しく理解してもらうためには、親が子どもに薬物についての正しい知識を教えることや学校での教育が重要になってくると思う。喫煙や飲酒もゲートウェイドラッグに繋がる場合もあり、親が子供を見放さず教育、指導することが大切だと思う。

私は、家族や友人との交流の機会を増やし、不安やストレスを吐き出して自分一人のため込まないようにしている。中学生になり勉強や生活面など周りの環境が変化して、いら立ちやストレスを感じることもあるが、人に話すことで気が楽になり、薬物とは無縁の存在になっていると感じる。一人一人が誰かを気にかける、気遣うということを意識することで、薬物のない沖縄、ひいては本当の「奇跡の国 日本」に近づくことができると思う

一人ひとりの意識が、この美しい沖縄を変える第一歩になる。みんなで踏み出そう。一人の百歩よりも、みんなで一步を。

発表後に本人に感想を聞くと、「今日の発表は100点!」と笑顔で答えてくれました。これまで何回も練習を重ねてきた成果を本番で発揮することができてとても素晴らしいと思いました。結果は優秀賞で、地区大会への出場権は逃しましたが、伊良波中の代表として、とても堂々とした発表を披露してくれました。



## 【県空手道大会(先行開催)】～個人戦で九州・全国大会に出場決定!～

6月25日(土)に県立武道館において県中学校夏季総合体育大会(空手道)が先行開催されました。1年生の三浦なぎさんが個人形の部で準優勝(九州・全国大会出場)、2年生の金城宇月さんが個人組手で3位(九州大会出場)の上位入賞を果たしました。おめでとうございます。九州・全国での健闘を期待します。団体戦は惜しくも九州・全国大会出場は叶いませんでした。

